

第3回（7月16日）研修会報告 会場：早稲田大学11号館

## 「活用できる個別の指導計画の立て方を学ぶ」

講師：N.Y州サイコロジスト、バーンズ亀山静子先生 早稲田大学教授高橋あつ子先生

個別の指導計画は、立てて指導に生かしている学校、立ててはいるが活用できずにいる学校、まだ手付かずな学校など、実態は様々です。「～アセスメント・短期目標・達成基準の整合性を考える～」をサブテーマとし、前半は、講師の先生から以下の4点についてレクチャーしていただきました。

①実態把握（アセスメント）の大切さと方法 ②指導介入の領域の特定（指導介入により能力の伸長を図るべきことと、合理的配慮で対応することを弁別する。） ③年間ゴールの設定の仕方（対象者の何がどのように変化するかをポジティブな言葉で表現する。） ④短期目標の立て方（設定に必要なもの〈条件・変化の内容・評価水準・評価のツールと方法・達成予定日〉について。）

後半は、個別の指導計画を「基礎から学ぶ」グループと「発展的に学ぶ」グループに分かれ、講師の先生のアドバイスを受けながら、各自の事例に基づき、実際に指導計画を立て検討しあうグループワークを行いました。

個別の指導計画は、『子どもがどのように変化するかという子ども本人のゴールを立てるのであり、教師自身の指導目標や授業計画ではない。』『手だてはゴールではない。』『ゴールに到達する方法はいろいろである。⇒手だてを書くこと、それを限定してしまうことになり、教師側の計画になるので書かない。』ことが大切であると学ぶことができました。



第3回参加者：一般20名・学生2名

### 《参加者の感想》

- ・短期目標の達成基準を4～5割と考えていたが、8割位になる目標にするとよいことが分かった。
- ・事例に基づき研修できたので、こうやって立てればいいのかと分かりやすかった。
- ・達成基準と評価の方法を書くことで、次の担当への客観的な申し送りができるのだと実感した。
- ・年間ゴールは、つい先生や周りの子どもが困っている行為をなくすことに意識がいきがちだが、主語を子どもにすることや、手だてがゴールでないことなど事例とともにイメージできた。
- ・「環境」に着目するのではなく、「子どもが何ができるようになるか」に着目することが大切だと学んだ。



### 基礎からグループ

前半の講義を受け、実際に個別の指導計画を作成しました。気づくと話し合いが手だてに向いてしまうことも実感しつつ、長期目標、短期目標中心の指導計画作成に戸惑いもありました。しかし、分からないことは講師の先生にすぐに質問することができたので「なるほど」「そういうことか」という声があちらこちらから聞こえてきました。まとめの時間には、どういう目標を立てるべきかという質問がでました。目標は、「短期目標の設定期間内に8割程度が達成されるもの。」また、設定目標が高いと思われるときは、「先生の手助けを受けながら・・・など、目標に条件を付けて、条件の調整で成長がわかるよう計画する。」など、具体的なアドバイスもいただくことができました。



### 発展グループ

指導計画を立てたことがある発展グループでは、事例に基づき、短期目標を並列に作成する（同じ長期目標に対し複数の短期目標を立てる）としたら、どのような目標が設定できるのか、段階的に設定するとしたら、ステップの上げ方は妥当か、教科の学びの特性を意識できているかについて検討が行われました。見えやすい表層スキルばかりに注意が向いて、合理的配慮で対応できることを目標設定しがち、適切な目標設定のためにはアセスメントが重要であることをあらためて実感できました。

### 次回研修会案内

日時：平成29年10月22日(日) 10:00～13:00 会場：早稲田大学22号館201号室

テーマ：「U.D.L 海外視察報告とラウンドテーブルディスカッション」

講師：早稲田大学教授 高橋あつ子先生 報告者：早稲田大学大学院生

内容：9月に、高橋あつ子先生と大学院生8名が、バーンズ亀山静子先生のコーディネートで、インディアナ州コロンバスに「学びのユニバーサルデザイン」の視察に出向きます。アメリカでインクルーシブ教育が最も進んだ地域の報告になります。視察者を囲んで、みんなでU.D.Lについて語り合しましょう！バーンズ先生もアメリカからスカイプで参加予定です。



